

令和 3 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【特別の教科 道徳】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備考
2 東京書籍	(1) 道徳科の目標を達成するために、全学年に「いじめ問題」「生命尊重」に関する3つの教材をユニット化することを通して、1つのテーマを深く学習できるように構成するなど、内容項目の関連を図りながら指導できるような構成・配列の工夫が見られる。	2年目次
	(2) いじめ問題については、「生命尊重ユニット」と「いじめ問題対応ユニット」を設定し、意図的な視点や意見を提示することで、多面的・多角的に考えさせたり、さまざまな視点から主体的に自分とのかかわりで考えさせたりすることができるなどの工夫が見られる。また、多面的・多角的に考えることができる学習活動を展開させるために、新聞の投稿欄の記事をもとにした教材や、漫画の表情やセリフを考える教材を活用するなど、さまざまな視点から学習することができる工夫が見られる。	2年 P23~33 P.61~75 1年 P71~73 2年 P52
	(3) 利便性や生徒にとっての分かりやすさについては、巻頭で「話し合いの手引き」や、道徳授業の基本的な授業の流れを示した「道徳の授業はこんな時間に」を設けるなど、主体的・対話的な学習を進めるための工夫が見られる。また、各教材に自分の考えや思いを書き込む「つぶやき」の欄や巻末に「自分の学びを振り返ろう」を設けることで、学習を継続的に深められるとともに、成長の記録として活用することができるなどの工夫が見られる。	2年 P3~4 P12 P193~
	(4) 自主的に考え判断するために、各教材に設けられた「つぶやき」で自分の考えをもち、教科書に直接書き込みながら考えをまとめ、グループ活動を通して思考を広げたり深めたりすることができるような工夫が見られる。また、自己の向上を図ることのよさを自分ごととしてとらえるために、「考えよう」や「自分を見つめよう」で道徳的価値に迫り、巻末の「自分の学びを振り返ろう」で、学期ごとに授業を振り返り、自己の成長を実感できるような工夫が見られる。	全学年共通 1年 P78 全学年共通 1年 P79 1年 P185

発行者	総 評	備考
17 教育出版	(1) 道徳科の目標を達成するために、取り組みやすさを重視した内容と分量で構成されており、生徒の心を揺さぶる読み物教材や問題解決的な学習を取り入れた教材を配置するなど、学びやすく、教えやすい教材の構成・配列の工夫が見られる。	2 年 P6~7 2 年 P118~121 P82~83
	(2) いじめ問題については、3年間を通して、いじめを直接的に扱った教材や間接的に考えさせる教材、道徳科の時間以外でも活用できるコラムを配置するなど、生徒自身が問題意識をもち主体的に自分とのかかわりで考えることができる工夫が見られる。また、多面的・多角的に考えることができる学習活動を展開させるために、教材末の「学びの道しるべ」では、何を、どのように考え、話し合っていくのか、学習の流れや発問例が分かりやすく示されているなどの工夫が見られる。	2 年 P92~101 P90~91 P102~103 P101
	(3) 利便性や生徒にとっての分かりやすさについては、巻頭に「道徳科で学びを深めるために」を設け、多様な考えを深めていく学習場면을例示することで、人間としての生き方について考えを深めるための工夫が見られる。また、学習の感想を記入する「授業の記録」や、「道徳の学びを振り返ろう」を巻末に設けることで、学びを振り返り、自分のよさや課題に気付くなど自己を見つめ直すことができる工夫が見られる。	2 年 P4~5 P190~191 P193~
	(4) 自主的に考え判断するために、学校生活の場面など生徒にとって身近なことや、質の高い読み物教材、漫画、絵本、新聞記事等の学びやすく多様な形式の教材を通して生徒に考えさせるような工夫が見られる。また、自己の向上を図ることのよさを自分ごととしてとらえるために、各教材にある導入の問いと教材の最後にある「学びの道しるべ」の問いを通して、学習する前と後の心の変容を生徒自身が実感することができるような工夫がみられる。	1 年 P100~103 P46~53 2 年 P92~96 1 年 P68~71 全学年共通 1 年 P103

発行者	総 評	備考
38 光村図書 出版	(1) 道徳科の目標を達成するために、1年間を3つのシーズンに分け、関連性の深い内容項目が有機的に結びつく教材を複数配置することで、生徒の成長や問題意識に寄り添いながら学びが深まるような構成・配列の工夫が見られる。	2年目次 P2～3
	(2) いじめ問題については、例えば「深めたいむ」において、日常に起こりがちな問題場面を取り上げることで、自己も他者も大切に生きることを考えさせ、情報モラルとも関連させるなど、主体的に自分とのかかわりで考えることができる工夫が見られる。また、多面的・多角的に考えることができる学習活動を展開させるために、全学年に「広げよう」を設け、一つの答えが出ない課題や、解決が難しい課題、生徒に考えてもらいたい現代的な課題を取り上げるなどの工夫が見られる。	2年 P63 P184
	(3) 利便性や生徒にとっての分かりやすさについては、巻頭に「道徳の授業を始めよう」、「どうやって学ぶの？」や「なぜ学ぶの？」を設け、学びを見通し、目的意識をもって授業に向かうことができるような工夫が見られる。また、「道徳の学びを振り返ろう」のページやポートフォリオ形式の「学びの記録」を巻末に設け、考えたことや感じたことを書き込ませていくことで、自ら考えを深めたり、成長を実感できる記録として活用したりできるなどの工夫が見られる。	2年 P6～9 P162～164 P193～
	(4) 自主的に考え判断するために、教材末にある「見方を変えて」や「つなげよう」で様々な視点から価値に迫り、「考えよう」では各教材を通して考えるべき問いから、もう一度めあてに戻って自らの考えを整理することができるような工夫が見られる。また、自己の向上を図ることのよさを自分ごととしてとらえるために、巻末の「学びの記録」で、シーズンごとに学習を始める前の心情から、1時間ごとの学びを通してシーズンが終わっての心の変容を実感できるような工夫が見られる。	全学年共通 1年 P50 1年 P85

発行者	総 評	備考
116 日本文 教出版	(1) 道徳科の目標を達成するために、重要なテーマとして「『いじめ』と向き合う」「よりよい社会と私たち」を設置し、複数の教材やコラムをユニット化するなど、1年間の学習の流れを重視しながら、より深い学びが得られるような構成・配列の工夫が見られる。	2 年 P4～5
	(2) いじめ問題については、3年間を通して、いじめが起きやすい時期に、生徒にとって身近な問題を扱った教材や、いじめへの理解を深めるコラムなどを複数配置することで、主体的に自分とのかかわりで考えることができる工夫が見られる。また、多面的・多角的に考えることができる学習活動を展開させるために、生徒にとっての身近な問題や、社会で活躍する人々について、「社会への参画」と「将来の生き方」の視点から教材をユニット化するなどの工夫が見られる。	2 年 P30～37 P38～39 P92～109
	(3) 利便性や生徒にとっての分かりやすさについては、巻頭に「道徳科で学ぶこと」や「道徳科での学び方」を設けることで、生徒が「考え、議論する道徳」の基礎・基本を理解し、主体的に学習に取り組むことができるなどの工夫が見られる。また、別冊の「道徳ノート」では、生徒の学習状況や考え方の変化などを毎時間記録することができ、さらには、自分と友達の意見を書く欄を設けることで、自分の意見と友達の意見を比べて考えることができるなどの工夫が見られる。	2 年 P2～3  別冊 P12～13
	(4) 自主的に考え判断するために、「学習の進め方」や「学習を深めるヒント」を設定して、問題解決的な学習や多面的・多角的な視点を提供し、自分自身を振り返る問いを設けることで、主体的に自分とのかかわりで考えることができる工夫が見られる。また、自己の向上を図ることのよさを自分ごととしてとらえるために、各教材の終わりに「自分に+1」の問いと付属のノートへの記入で思考を促したり、体験的な学習を提示しロールプレイや実演を通して学びを深化させたりできる工夫が見られる。	全学年共通 1 年 P22～27 P36～41  2 年 P185

発行者	総 評	備考
224 学研教育みらい	(1) 道徳科の目標を達成するために、特に「生命の尊さ」を重点的に扱い、他の内容項目とともに「いのちの大切さ」を考えさせる教材を複数配置するなど、多面的・多角的に考えることができるような構成・配列の工夫が見られる。	2 年目次 P8
	(2) いじめ問題については、特設ページ「クローズアッププラス」で、「生命の尊重」「いじめ防止」につながる 3 つのテーマを扱うなど、他者とよりよく生きることや、主体的に自分とのかかわりで考えることができる工夫が見られる。また、多面的・多角的に考えることができる学習活動を展開させるために、考えを深めさせる問いかけを示した「? ボックス」や「! ボックス」、教材をもとに考えを深めさせる特設ページ「深めよう」を設けるなどの工夫が見られる。	2 年 P55 P22~25
	(3) 利便性や生徒にとっての分かりやすさについては、巻頭に学び方や学ぶ内容を想起できる「明日への扉を開く」や「よりよく生きるための 22 の鍵」を設けることで、考えを深める 4 つのポイントを押さえながら、主体的に学習に取り組むための工夫が見られる。また、各教材の問いに対して自分の考えを記入できる書き込み欄や巻頭に「マイプロフィール」、巻末に「心の四季」と「学びの記録」を設けることで、年間を通して自分の成長を実感することができるなどの工夫が見られる。	2 年 P2~3 P6~7 P9 P188~189
	(4) 自主的に考え判断するために、メモ欄を設けたり、段階的な発問を提示したりすることで、教材を通して道徳的価値を深め、自分が登場人物の立場ならどうするか、多面的・多角的に物事を考えることができる工夫が見られる。また、自己の向上を図ることのよさを自分ごととしてとらえるために、教材を基に考えを深める「深めよう」のページを特設し、ブレーンストーミングやマッピングなどの多様な手法を用いて、考えを広げたり深めたりできる工夫が見られる。	1 年 P10~15 P46~49 2 年 P25 P127 P181 全学年共通

発行者	総 評	備考
232 廣済堂 あかつ き	(1) 道徳科の目標を達成するために、喫緊の教育的課題である「いじめ防止」との関連を考慮し、「自主、自律、自由と責任」「思いやり、感謝」「生命の尊さ」「よりよく生きる喜び」を重点項目とし、年間を通して複数配置するなどの構成・配列の工夫が見られる。	2 年最終ページ
	(2) いじめ問題については、巻末の「いじめを許さない私たちの心」を配置し、道徳の内容に示された 4 つの視点から考えを深めたり、別冊資料でグラフや構造図を用いたりするなど、主体的に自分とのかかわりで考えることができる工夫が見られる。また、多面的・多角的に考えることができる学習活動を展開させるために、「問題解決的な学習」や役割演技・動作化などを通して深く考える「体験的な学習」を促す教材を配置するなど、道徳的諸価値を深めることができる工夫が見られる。	2 年 P158~159 別冊 P12~13 2 年 P40~41
	(3) 利便性や生徒にとっての分かりやすさについては、例えば 2 年生の巻頭に「自分を考えようー道徳の時間とは」を設け、道徳科における学習活動や考える視点を具体的にイメージできるなどの工夫が見られる。また、別冊の「道徳ノート」では、授業で考えたことや感じたことを記述する「学習の記録」や、教材ごとに学びを振り返る「心のしおり」を設けることで、心の記録として自己の成長に気付かせることができるなどの工夫が見られる。	2 年 P2~3 別冊 P26~27 巻末
	(4) 自主的に考え判断するために、「学習の手がかり」を設定することで、考えを広げたり深めたりする手立てとし、「道徳のノート」では、内容項目に関連した補助教材を掲載することで、様々な視点から道徳的価値について考えられる工夫が見られる。また、自己の向上を図ることのよさを自分ごととしてとらえるために、自己目標の達成、よりよい社会の追究、自然愛護など様々な教材を提示し、自分の在り方を問う具体的な問いを載せ、付属のノートに記入できるようにするなどの工夫が見られる。	全学年共通 1 年 P5~9 P42~47 別冊ノート